

真理の追究 ～天文学講座より～

1 月 27 日（金）の 5・6 時間目に天文学講座がありました。東京都三鷹市にある国立天文台から講師として大石雅寿さんに来ていただき、貴重な資料や映像を見ながら宇宙のことについて学びました。私は最近、宇宙飛行士のマンガにはまっているので、とてもワクワクしながら話を聞いていました。大人が聞いても難しい内容でしたが、どの学年の生徒も一生懸命聞く姿がとても素晴らしかったです。2 年生は積極的に手を挙げて質問する姿も見られました。宇宙については分からないことや誰も見たことがないことばかりです。巨大な望遠鏡を作ったり、気が遠くなるほど遠い星のことを研究したりすることはとても根気がいることだなと感じました。

先日、澤石先生の道徳の授業で「真理を追究する」という話がありました。まさしく宇宙の研究は「真理の追究」であり、人々の宇宙への探求心によって人類は宇宙へ行くことができるまでになったのだと思うと、人間の「知りたい」という気持ちの強さに驚かされます。世界には本当にあるかどうか分からないものや、正解のない問題があるかもしれません。それでも自分の答えを求めて学び研究し続ける姿勢が人類の進歩にはとても大切なのではないかと考えさせられました。最後に大石雅寿さんが「宇宙人はいると思います」とおっしゃっていた一言がとても印象的でした。「そんなのいるわけがない」と言い切ってしまうことは簡単です。しかし、その存在を信じて更に研究することはとてもワクワクし、夢と希望にあふれているなど感じました。講師の先生もおっしゃっていましたが、大島は本当に夜空がきれいな場所です。ぜひ、夜空を見上げて宇宙の神秘に思いを巡らせてみてください。



垣根をこえて ～道徳より～

2 月 1 日（水）の道徳では「垣根をこえて」というテーマで、杉原千畝さんの話をしました。自分や家族の身を危険にさらしながらも全く違う国、違う文化のユダヤ人の人々を助けるために尽力した杉原さんの生き方から自分だったらどうするか、杉原さんはどのような思いで行動したのかについて話し合いました。授業を通して人種の違いや差別、人として大切なことは何かなど一人一人が真剣に考えてくれてとても嬉しかったです。技術などが進歩し私たちと世界との距離はどんどん近くなっています。だからこそ、これからの世界を生きていく私たちは自分のこと、日本のことばかりではなく、世界のことにも目を向けていく必要があります。今日の授業をきっかけに私たちは世界の一員としてどう生きていくか、そして「垣根をこえる」とはどのようなことなのかについて折に触れて考えてみてください。